

公益社団法人白河青年会議所

2023 年度 理事長所信（案）

理事長 上田 雄介

「スローガン」

金蘭の契り ~65th Anniversary~

新時代へ！

【はじめに】

1959年7月18日、戦後の復興による経済の発展と明るい豊かな社会の実現を目指して、志高き8人のメンバーにより白河青年会議所は歩みを始めました。

その高い志と伝統は先輩諸兄の情熱ある行動をもって連綿と受け継がれて現在もなお、白河市・西郷村・泉崎村・中島村・矢吹町を中心に県南地域全域にて運動・活動を展開しています。

創立より65年、物質的な豊かさを得られた一方で少子高齢化や介護問題、いじめや凶悪犯罪、この他にも様々な社会問題が浮き彫りになってきています。これまでも幾多の困難を乗り越えては来ましたが、新型コロナウイルス感染症の流行は特に、社会や生活を一変させました。しかしながら、そのような状況化においても様々な変革を行い、歩みを止めることなく進み続けており、今年からこそは新たに時代が大きく動き始めると確信しています。

改めて、国や地域の再建は我々青年の役割であるとの熱い想いで創始の精神に立ち返り、新たな時代を切り開くべく情熱をもって運動・活動を加速していきます。

いつの時代も逆境やピンチの時に立ち上がり、誰よりも先に動き出し、家族も社員も守りながら、前を向き続けた65年の想いを胸に・・・

【創立 65 周年を迎えて】

白河青年会議所は、本年で創立 65 周年を迎えます。こうして無事に迎えることができるのも、現在に至るまで様々な形でご支援をいただいた地域関係者の方々のご理解ご協力と、高い志をもって受け継いできていただいた先輩諸兄の努力の賜物です。

ここ数年で忘れかけそうになった、「繋がり」を再び呼び起こし、まち・ひととの繋がりをより一層重要視して、時代の先駆者となる姿を見せていきたいと思えます。

また、創立 60 周年時に策定した「しらかわ未来ビジョン -the way of the 70th Anniversary-」を再度見つめ直し、明るい豊かなしらかわ地域の実現に向けた我々の進むべき道標を明確にして、次の創立 70 周年に向けた一歩を踏み出していきます。

【まち～歴史や風土を大切に作る地域づくり～】

先にも触れた新型コロナの影響で、観光業や飲食業の大打撃は言うまでもありません。一時的ではありましたが、その支援となる事業も行い衰退は免れたと自負しております。

他地域からも羨ましがられるほどの歴史的建造物や観光名所、特産物などの地域資源をかけ合わせ、新たな地域価値を見出して率先して行動していく必要があります。

各種の青少年育成事業やまちづくり事業の中で触れることも有効な手段と捉え、時代に合わせた付加価値やしらかわ地域が誇る有形・無形に関わらない様々なものを組み合わせ、会員ひとりひとりが発信する事で、魅力あるまちづくりを引き出していきます。

【ひと～仲間や思い出が増える地域づくり～】

「ひとづくり」こそ「まちづくり」というぐらい、人材は宝と考えます。

地域内人口こそ減少しているものの、地域のことを思い、考え、行動を目指す若者は決して少なくはなくはありません。我々とは違った側面を持つ若者こそ宝であり、この先も愛郷心を持って活動していくことは間違いないでしょう。

一緒に何かを成し得るという事で仲間意識の醸成にも繋がり、継続することで徐々にその輪が広がることに大きく期待し、若者や団体との支援や連携など、無限の可能性を数多く創出できるよう展開していきます。

【ゆめ～未来を描ける夢のある地域づくり～】

やはり、スポーツっていいなと心から思う。

私自身も小学生から野球を始めて中学高校と野球を続けて、甲子園出場という夢がありました。

挨拶・ルール・マナー・仲間意識・ライバル心・プレッシャー・喜び・悔しさ、そして何よりも思い出。これらは決して家庭や学校だけで教えられるものではなく、夢中になることで得られる唯一無二の賜物でした。

子どもたちに少しでもこうした機会を提供できる環境であれば、まちやひとの未来も明るくなり、スポーツによる地域産業の活性化・スポーツツーリズムによる観光産業の活性化・施設の充実によるスポーツ人口の拡大など、無限の可能性が広がります。

スポーツでしらかわ地域を盛り上げよう！

【会員拡大こそJC運動】

「しらかわ未来ビジョン-the way of the 70th Anniversary-」の実現には会員拡大が不可欠です。

「よそ者・若者・バカ者」という言葉を一度でも聞いたことはあるはずです。

現役会員もしらかわ地域に誇りや愛情を持って活動していますが、今後はさらに既定の概念にと
らわれない「新しい血」を入れることが一番必要なことかもしれません。

しかしながら、急激な社会の変化は会員拡大活動にも影響を及ぼしており、それぞれに違った環境
や価値観があることを理解せずには、会員拡大どころか会員数の減少を招く可能性もあります。「育
LOM」や「ベビーファースト運動」に参画した意義をより一層理解し広報することで、地域や社会
を牽引するリーダーを増やすことが出来、それだけ違った価値観に触れる機会に恵まれ、新鮮味や独
創性が溢れ、多様な価値観が育まれて自己成長にも繋がる好循環を生み出します。

自己成長＝まちの成長となることを信じ、全会員が拡大活動こそが青年会議所運動の根幹の一つで
あることを理解し活動していくことで組織に新たな風を起こし、新たな時代の人と人とのつながりを
生み出し、社会発展のための行動を率先して行える地域のリーダーを増やして行きます。

【SDGs の今】

「青年会議所が日本一の SDGs 推進団体になる」

2019 年の SDGs 推進宣言以降、各所であらゆる取り組みが行われていますが、まだまだ取り組み
数は少なく、内容さえも理解していない方がほとんどです。

それはなぜか。

地球市民全員に当てはまり、一人ひとり異なる状況に置かれているためにスタート地点がバラバラ
で、何から取り組むべきか困惑しているからです。

まずは、自分の今いる状況を良い方向へ持っていくために、目標やターゲットに書かれている指標
を自分の状況と照らし合わせて解釈することが大切です。

自分であれば何ができるか。他人の真似をしても構わない。

10年後20年後の未来を想像し、自分はどのような世界に住みたいか、どのように社会に貢献した
いか、今一度考えて行動していきましょう！

【強力な組織論】

青年会議所は多種多様な挑戦が許され、自らを高めることができる唯一無二の魅力的な学び舎です
が、一方では、それらを下支えする土台の強さが条件ともなります。

そのためにもまずは「報告・連絡・相談」にてメンバー間の情報共有をしっかりと行っていきましょう。
手段が手軽になった一方で希薄になりつつある基本的なことですが、電話やSNSだけでなく、きち
んと自分の言葉で伝えることが組織として必要な要素です。

メンバーひとりひとりを見ても、野球でも花形となるエースや4番バッターばかりだけではチーム
は機能しません。回りを支持するメンバーや指示に沿って動いてくれるメンバー、指導的立場のメン
バー、そして客観的にアドバイスをしてくれるメンバーがいて組織は成り立っていきます。誰もがそ
れぞれのポジションに就けるわけではありませんが、必ずその機会は巡ってくるはずです。

そのためにも、まずは三信条「奉仕・修練・友情」に沿って行動してみてください。

まずは身近な誰かのために奉仕してください。そして、自分なりに負荷をかけて誰かのためになれ
るよう自身の修練をしてください。修練とは辛いこともあります但し乗り越えた先に喜びと楽しさがあ
り思い出が生まれます。思い出が積み重なるとそれが友情になります。友情の積み重ねは会員同士の
より一層のつながりを生み、そのつながりの深さこそが青年会議所という組織の強固な基盤となり強
力な組織へとなっていくでしょう。

【むすびに】

65年という栄養たっぷりの土壌のもとに・・・

大地を掴むような細かくしっかりした根となる、契り総務委員会

太く強く堂々とそびえ立つ、企画室・財政室

時には光を通し時には光を遮る葉となれ、極みの会員支援グループ

金をも断ち切る堅い実となれ、金の如き価値創造委員会

蘭にも勝る美しい花となれ、蘭の如し魅力発信委員会

ともに契りを交わし、最高の 65th Anniversary へ！